

横浜市感染症発生動向調査報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行注意報が発令されました(注意報発令基準値:定点あたり10.00)。現在の流行の主流はAH1pdm09で、ワクチン株と類似しています。今後さらに流行が拡大することが考えられるため、注意が必要です。
- 感染性胃腸炎は流行のピークを過ぎましたが、報告が多い区や、集団発生も報告されており、引き続き注意が必要です。

全数把握の対象

【1月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
デング熱	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3件
レプトスピラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	12件
アメーバ赤痢	4件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	10件
急性脳炎	1件	破傷風	1件

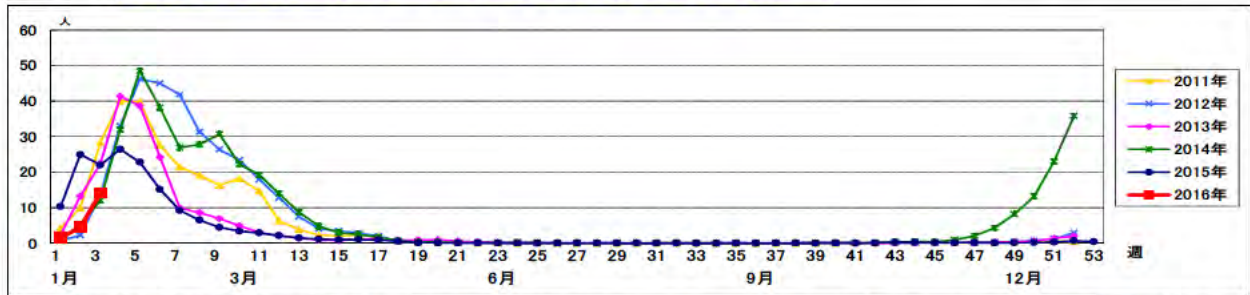
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:1件の無症状病原体保有者の報告がありました。勤務先の定期検便で判明しましたが、周囲の感染者は確認できませんでした。
- 2 **デング熱**:3件の報告があり、海外(ミャンマー、ベトナム、フィリピン)での感染が推定されています。
- 3 **レジオネラ症**:肺炎型2件、ポンティアック型1件、無症状病原体保有者1件の報告がありましたが、どれも明確な感染経路等は不明でした。
- 4 **レプトスピラ症**:1件の報告がありました。国内での動物(ネズミ)による感染が推定されています。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの保菌動物(ネズミ等)の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接触れる可能性のある労働などでの感染が報告されています。
- 5 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症4件の報告があり、1件はアメリカまたは東南アジアでの経口感染、もう1件は中国での感染で感染経路不明、残る2件は国内での感染で感染経路不明でした。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:4件の報告がありました。
- 7 **急性脳炎**:1件の幼児の報告がありました。ノロウイルスによる感染が推定されています。
- 8 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:AIDS1件、無症状病原体保有者1件、その他1件の報告がありました。そのうち2件は国内での同性間性的接触による感染、残るもう1件はインドネシアでの異性間性的接触による感染でした。
- 9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:3件の報告(70歳代2件、90歳代1件)がありました。
- 10 **侵襲性肺炎球菌感染症**:成人例12件の報告があり、すべて予防接種歴は確認できませんでした。
- 11 **水痘(入院例に限る)**:幼児の臨床診断例が1件ありました。約1年前にワクチン接種歴が1回ありました。
- 12 **梅毒**:10件の報告(早期顕症梅毒Ⅱ期1件、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、無症候期3件)があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触5件、同性間性的接触2件、性的接触(同性間か異性間か不明)1件、感染経路不明2件でした。
- 13 **破傷風**:1件の報告があり、創傷感染が推定されています。

定点把握の対象

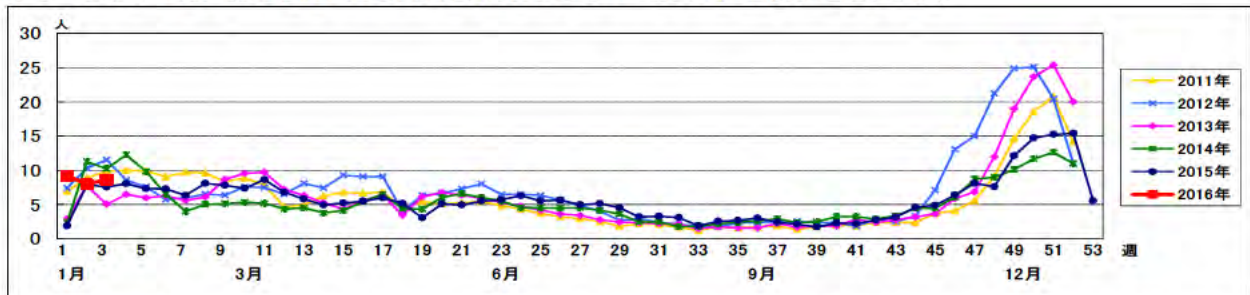
平成27-28年 週一月日対応表	
第51週	12月14日～12月20日
第52週	12月21日～12月27日
第53週	12月28日～1月3日
第1週	1月4日～1月10日
第2週	1月11日～1月17日
第3週	1月18日～1月24日

- 1 **インフルエンザ**:第3週は市全体で定点あたり14.13と、注意報発令基準値10.00を上回りました。学級閉鎖や、入院が必要となる重症化事例も増加しています。市内医療機関での迅速診断キットの結果ではA型76.8%、B型22.6%、ABともに検出0.6%と、流行シーズン初めながらB型が多く検出されています。衛生研究所で検査した市内のウイルス検出状況はAH1pdm09が83.3%(30件中25件)と最も多くなっており、現在の流行の主流と考えられます。ワクチン株との抗原性解析では、解析したAH1pdm09株はすべてワクチン株と類似していました。今後のさらなる流行に注意が必要です。

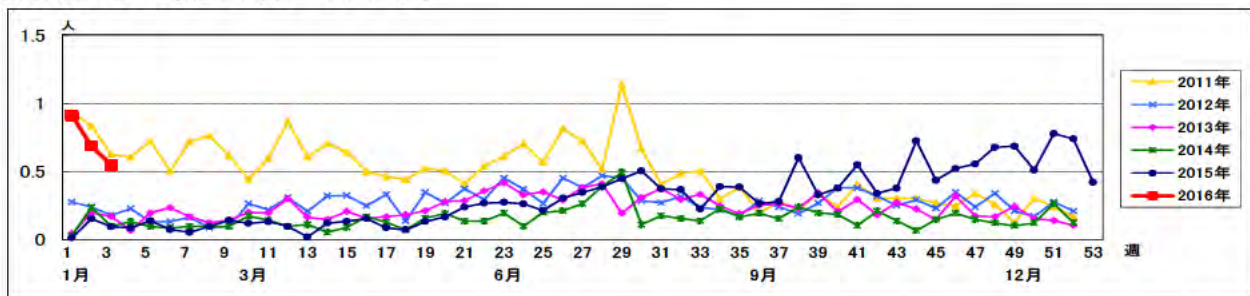
◆参考:[感染症臨時情報「インフルエンザ」\(横浜市感染症情報センター\)](#)



- 2 **感染性胃腸炎**:第3週は市全体で定点あたり8.63とほぼ横ばい傾向ですが、集団発生もまだ多く報告されています。区別では港南区14.00など報告が多い区もあり、注意が必要です。



- 3 **流行性耳下腺炎**:第3週は市全体で定点あたり0.55と、直近3週間では低下傾向ですが、例年に比べて報告数が多い状況が続いています。



- 4 **性感染症**:2015年12月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が20件でした。性器ヘルペス感染症は男性が10件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。

- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第51週1.33、第52週0.75、第53週0.75、第1週1.00、第2週1.00、第3週0.75とコンスタントに報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)が第51週1.33、第52週0.00、第53週0.00、第1週0.25、第2週0.00、第3週0.25と報告されています。細菌性髄膜炎が第3週に1件報告されています。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

- 6 **基幹定点月報**:2015年12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症7件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点40件、内科定点14件、眼科定点3件、基幹定点10件で、定点外医療機関からは2件でした。

2月5日現在、表に示した各種ウイルスの分離株30例と遺伝子20例が同定されています。

表 感染症発生动向調査におけるウイルス検査結果(1月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S 感 染 症	感 染 性 胃 腸 炎	そ の 他
アデノ 4型	1					
アデノ 型未同定	2			1		
インフルエンザ AH1pdm09型			21			
インフルエンザ AH3型			2			
インフルエンザ B型ビクトリア系統			3			
パラインフルエンザ 3型		1	1	2		
RS	2	1	1	3		
ヒトコロナ		1				
ヒトメタニューモ	1					
ライノ	1		1			
コクサッキー B5型	1					
ヒトヘルペス 6型						1
ノロ					2	1
合計	4 4	3	26 3	6	2	2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

1月の感染性胃腸炎は、基幹定点から9件、その他から6件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7)、サルモネラ(*S. Weltevreden*、*S. Newport*)が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から4件、基幹定点から3件、その他から40件でした。G群溶血性レンサ球菌は劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	1月			2016年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		0	9	6	0	9
菌種名						
腸管出血性大腸菌			1			1
サルモネラ		2			2	
不検出	0	7	5	0	7	5

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	1月			2016年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		4	3	40	4	3
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T4	1		1		
	型別不能	2		2		
G群溶血性レンサ球菌			1			1
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			1	
インフルエンザ菌			1			1
肺炎球菌		1	8		1	8
結核菌			24			24
その他			1			1
不検出	1	1	5	1	1	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】